

(医療・福祉の充実－ 5)

神戸市第二次救急病院協議会救急医療情報システム
(神戸市第二次救急病院協議会)
<http://www.kobenijikyuu.info/>

〔概要〕

神戸市内の民間病院を中心とする病院群が作った救急医療向け情報システム。病院側の救急医療情報をインターネットで、パソコンや携帯電話に公開しているため、52病院(平成25年12月時点)のリアルタイムな情報は、消防署や救急車内での対応や市民の急病対応として活用されている。

【日経地域情報化大賞2008 日本経済新聞賞受賞】

〔コラム〕

神戸市消防白書によると、平成24年中に救急車で収容された神戸市民は63,141名あり、そのうち42,018名、総数の66.5%を当協議会に所属する病院群が入院治療をおこなっています。ちなみに、中央市民病院・西市民病院・西神医療センター3病院の救急車搬送患者数は12,924名、全体の20.5%でした。

神戸市 病院収容状況

	総搬送 人員	輪番病院	中央市民	西 市民	西 神戸	病院 その他	市外
平成20年	53,411	35,589 (68.5%)	5,681 (10.4%)	1,630	2,531	4,632	2,348
平成21年	55,381	37,622 (67.9%)	5,899 (10.7%)	2,051	2,624	4,829	2,356
平成22年	60,424	39,781 (65.8%)	7,777 (12.9%)	2,608	2,805	4,813	2,640
平成23年	62,587	41,189 (65.8%)	8,368 (13.4%)	2,550	2,546	4,979	2,955
平成24年	63,141	42,018 (66.5%)	7,609 (12.1%)	2,801	2,514	5,078	3,121

表一 年度別神戸市内救急搬送実績

この様に、数の上では2次救急病院群は市民病院群の3倍を超える件数を引き受け治療しているといえます。では、質はどうかと云うと、2次救急病院群の中で、夜間休日何時でも心筋梗塞に対する血管内治療、破裂脳動脈瘤のクリッピング術・コイル塞栓術、全麻下消化器外科手術のできる病院が常にそれぞれ数病院あります。したがって質の上から云っても市民病院群に比べて何ら遜色はありません。私も2次救急病院群は、神戸市の隅々まであまねく分布しているので、神戸市民が何時でも何処でもアプローチしやすく、また、あらゆる専門科目を備えていることから、いわば「第2の救急救命センター」の様な働きをしています。しかし、協議会に参加する52病院がバラバラに動いていたのでは、真の「第2の救急救命センター」としての役割をはたすことはできません。そこで、これら病院群の間を取り結ぶためには、「病院間で情報を共有する救急医療情報システムが必要であり、かつ、救急隊員との密接

な連携が必要である」との結論に至りました。「神戸市第2次救急病院協議会救急医療情報システム」は平成12年秋から協議会に参加する病院の間で、それぞれの病院がもつリアルタイムの情報を共有化するため、VPNを活用した地域イントラネット網を用いて構築を始めました。そして、平成14年末には2次救急病院群に参加する総ての病院がネットワークに参加し、リアルタイムの情報を正確に入力するようになりました。さらには、兵庫県広域災害医療情報システムにも情報を提供し、災害医療にも大いに貢献しています。さて、現行のイントラネットのままであれば病院間の連絡はできても、肝心の救急隊員への情報提供がもう1つスムーズにいきませんでした。また、情報の一部を「急病情報」として市民にも公開する必要がでてきました。そこで、平成17年末より情報提供部分のみインターネット対応に改編し、その一部を「救急車対応情報」として、各消防署にはパソコンを通じ、救急車には携帯電話を通じてリアルタイムに提供でき、かつ、1部を「急病対応情報」として一般市民にパソコンや携帯電話を通じて公開すべくシステムの再構築を始めました。その結果、平成19年初めには53病院のリアルタイムの救急医療情報を救急隊へ「救急車対応情報」として、一般市民へは「急病対応情報」として提供できる体制が整い今に至っています。今年度は、これまでのイントラネット網による運用をインターネット網による運用に改変しました。これにより、何時でも何処からでもシステムにアクセスできるようになった結果、医療機関の利便性が高まり、さらには神戸市消防局の指令システムを通じて、救急車へリアルタイムの情報を直送させる仕組みも実現いたしました。

今後も救急を要する神戸市民を迅速且つ正確に専門病院に搬入治療するべく努力を重ねるつもりです。また、急病の市民の皆様にはインターネットを通じて、急病診療情報を流しますので、ご利用いただければと考えています。さらには、近隣の市にも「第2次救急病院協議会」の輪を広げ、システムにも参画していただき、広域での搬送連携を進めたいと考えております。

〔制作費(うち公的な補助額)〕:17百万円(7百万円 神戸市)



(問い合わせ先)

神戸市第二次救急病院協議会

事務局長 釜戸 孝郎

TEL:078-381-5799 e-mail:2jiq-kobe@iaa.itkeeper.ne.jp

(システムに関する問い合わせ)

国際航業株式会社 島 麻子

TEL:06-6487-1280 e-mail:asako_sima@kk-grp.jp